

令和
4年度

久留米市社会福祉協議会 事業報告

主な取り組みと決算状況をお知らせします。

1 地域福祉活動の 推進支援

①「くもめ支え合うプラン」 の地域展開

地域の各種会議や学習会の場を活用し、計画策定を働きかけました。また、策定した計画に基づき具体的な取り組みを実践するとともに、進み具合を確認しながら、地域福祉活動を進めました。

②見守りや支援の対象者を 広げる

校区社会福祉協議会やふれあいの会などが行う地域福祉活動について、コロナ禍でも地域のつながりが途切れないよう、感染に留意した活動や校区の実情に添った助言・支援を行いました。

③コミュニティ組織との新たな ネットワーク化

校区コミュニティ組織を

中心に、支え合いの必要性について継続して説明を行い、すべての校区に支え合い推進会議が設置されました。また、各校区での取り組み等を紹介する「つながるスィッチ!!」を活用し、多くの地域住民に地域での福祉活動を伝えられるよう努めました。

④興味や関心事を軸として 集う市民グループとの連携

世代を超えて人と人、人と社会資源が分野を超えて緩やかにつながる社会づくりに取り組んでいる市民グループと連携し、居場所づくりや当事者同士のつながりづくりを進めました。

⑤地域福祉を担う人材の育成

校区社会福祉協議会役員基礎セミナーやサロン運営者研修を行いました。また、福祉学習の取り組みとして、聴覚障害児と中高生の交流



サロン運営者研修の様子

2 相談・支援

①組織内の情報を支援活動 に活かす

生活福祉資金貸付等で把握した福祉課題のある世帯に対し、その解決に向けた支援活動を行いました。また、災害ボランティア相談窓口では、被災者の生活環境の

回復に努め、その過程で気づいた福祉課題の対応に努めました。

さらに、市内の関係機関等との連携を強化するため、制度の学習や意見交換を行う場である「重層的な支援体制の構築を考える会」を開催しました。

②継続的で柔軟な対応を行う ていく

「複合・狭間」の課題解決に向け、関係機関、地域住民、当事者等が協議する場（重層的支援会議）を設け、ケースの情報共有や支援体制の構築に努めました。また、生活困窮世帯や、ひきこもりの当事者や家族で、自ら支援を求めることができない人へのアウトリーチを行い、支援関係機関等へつなげつつ



社福法人と地域との連携による住宅環境整備

当事者団体と協働し、生きづらさのある人のつながる場づくりに努めました。また、自立に向け寄り添った支援を行う「ライフレスキュー

久留米連絡会」内に、より効果的な地域貢献を展開することを目的とした実行部会を設置し、困窮世帯の住宅環境整備や災害復旧支援などを実施しました。

③地域へのきめ細やかな きかけ

校区ごとに配置されたコーディネーターが地域福祉の推進に関する住民同士の話し合いの場に参加し、住民間の情報共有、支え合う関係づくりの促進、課題解決に向けての支援を行いました。

④要支援者の情報を速やか に把握する

通常の見守り訪問活動に加えて、コロナ禍においても、つながりを絶やさないよう、電話や手紙などを用いた安否確認の実施を働きかけました。また、地域住民を対象とした学習会、研修会等を校区社会福祉協議会等とともに実施しました。